

デジタル・テクノロジー基本研修
プログラム概要・募集要項

2023（令和5）年度 モデル研修版 【11/15更新】



- 本モデル研修は、厚生労働省令和5年度老人保健健康増進等事業（老人保健事業推進費等補助券）に採択された、「介護現場の生産性向上を促進するための中核人材のスキル強化と習得プログラムに関する調査研究」による事業です。
- モデル研修受講にあたっては、受講者と勤務先（施設・事業所）を対象とする調査にご協力いただくことを、あらかじめご承知おきください。

【研修のお申込み】

公益社団法人日本介護福祉士会ホームページ

「デジタル・テクノロジー基本研修の開催について」

<https://www.jaccw.or.jp/>

※ 日本介護福祉士会の会員ではない方は、研修管理システム『ケアウェル』の登録が必要です（登録料は発生しません）。

※ 日本介護福祉士会会員は、研修管理システム「ケアウェル」でお申込みできます。

『ケアウェル』にまだ登録していない方は、次の流れで登録手続きを行ってください。

「会員様向け情報：個人サイトのご案内」

<https://www.jaccw.or.jp/members/kojin>

→個人サイト『ケアウェル』をクリック→「日介 ID/パスワードを忘れてしまった方はこちら」をクリックし、ID とパスワードのご登録

【お問合せ】

公益社団法人日本介護福祉士会事務局

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-1-13 小野水道橋ビル 5 階

※ 研修の申込み手続きや『ケアウェル』登録についてのお問い合わせ
TEL 03-5615-9295（平日 10:00～17:00 ※土日祝日を除く）

※ 受講申込をした方のお問い合わせ
E-mail seisansei@jaccw.or.jp（「デジタル基本研修担当」宛）

もくじ

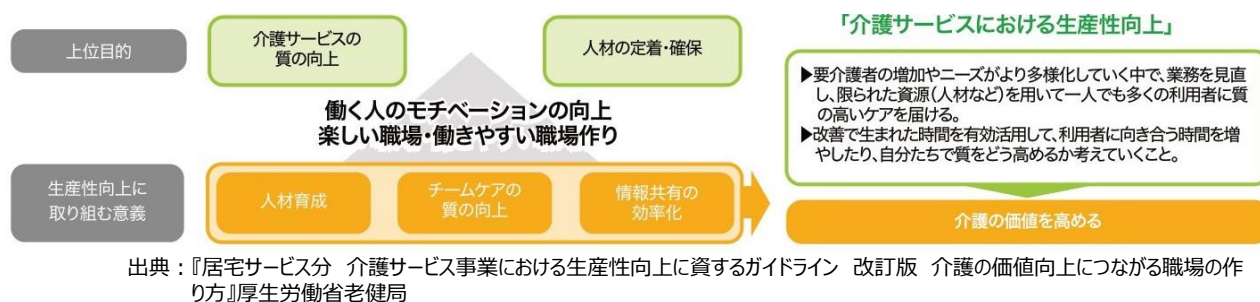
1. 本研修のねらい	3
(1) 介護現場における生産性向上のとらえ方	4
(2) 生産性向上中核人材育成プログラムの全体像	4
(3) デジタル・テクノロジー中核人材に期待すること	4
2. 本研修の枠組み	5
(1) 目的	5
(2) 対象	5
(3) 費用	5
(4) カリキュラムの構成と研修方法	5
3. オンデマンド動画の概要	6
(1) 視聴方法と読替（受講免除）	6
(2) 導入動画と視聴前の自主学習	6
(3) 視聴後の課題（必須）	6
4. 集合研修の概要	7
(1) 集合研修のタイプー対象と方法ー	7
(2) 科目の構成と研修の流れ	8
(3) 研修日程	9
(4) 受講方法と読替（受講免除）	10
(5) 自職場での取り組み課題（必須）	10
5. 外部プログラムの活用	11
6. 研修シラバス	12
(1) 受講の準備（必須）	12
導入課題	「介護現場の生産性向上」 12
(2) オンデマンド動画（必須）	13
介護過程の実践力	「介護過程の応用的理解」 13
	「科学的介護の基礎的理解」 14
	「介護職の倫理と利用者の全人性・尊厳の実践的理解」 15
チームをまとめる力	「チームがまとまり成果を生み出す考え方と方法」 16
生産性を向上させる力	「介護現場の問題発見と解決スキル」 17
	「介護ロボット・ICTの基礎的理解」 18
事前課題（集合研修開始までに取り組む課題）	「介護現場の生産性向上についての基本的な理解」 19
(3) 集合研修（必須）	20
生産性を向上させる力	「介護現場の業務改善（演習）」 20
	「介護ロボット・ICTの導入（演習）」 21
	「利用者支援に向けた活用（演習）」 22
自職場での取り組み課題（集合研修のなかで取り組む課題）	
	「課題① 業務分析」 23
	「課題② 介護ロボット・ICT導入計画の作成」 23

1. 本研修のねらい

介護サービスの生産性向上 = 介護の価値を高めること

(1) 介護現場における生産性向上のとらえ方

- 『居宅サービス分 介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン 改定版』（厚生労働省）では、介護サービスの生産性向上を「介護の価値を高めること」と定義しています。
- さらに、生産性向上に取り組む意義を、「人材育成」「チームケアの質の向上」「情報共有の効率化」とし、介護サービスの質の向上と人材定着・確保をめざす、としています。



- 介護現場における生産性向上とは、テクノロジーの活用等で業務改善や効率化等を進めることにより、職員の業務負担の軽減を図るとともに、業務改善や効率化で生み出した時間をケア業務に充て、利用者と職員が接する時間を増やすなど介護サービスの質の向上につなげることです。
- 生産性向上中核人材育成プログラム検討部会では、本研修プログラムを開発するにあたり、国が推進する介護分野の生産性向上の考え方をふまえて、「介護サービスにおける生産性向上」を次のように整理しました。
- 介護サービスの質の向上をめざすためには人材の定着・確保とモチベーションの向上が必要であり、いずれも相互に関連しています。これらの目的を達成するためには次の5項目が必要です。

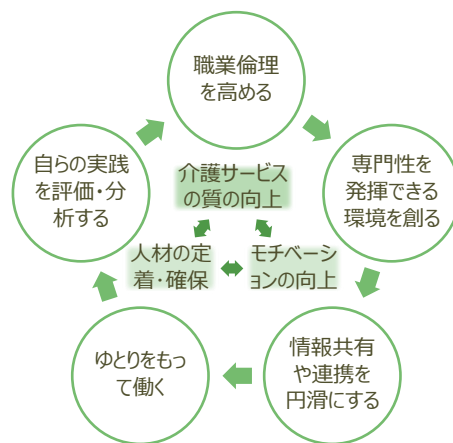
介護サービスの質の向上を達成するために必要なこと

- ✓ **職業倫理を高める** 倫理観や職業道徳を強化するための教育機会を確保する
- ✓ **専門性を発揮できる環境を創る** 専門知識やスキルを最大限に活かせる環境を整備する
- ✓ **情報共有や連携を円滑にする** 情報共有や他職種との連携を円滑にする仕組みを整備する
- ✓ **ゆとりをもって働く** 労働環境の改善や業務の効率化を行い、業務の負担軽減を図る
- ✓ **自らの実践を評価・分析する** 自分自身や職場の実践を客観的に評価し、分析する

本部会が考える介護サービスにおける生産性向上

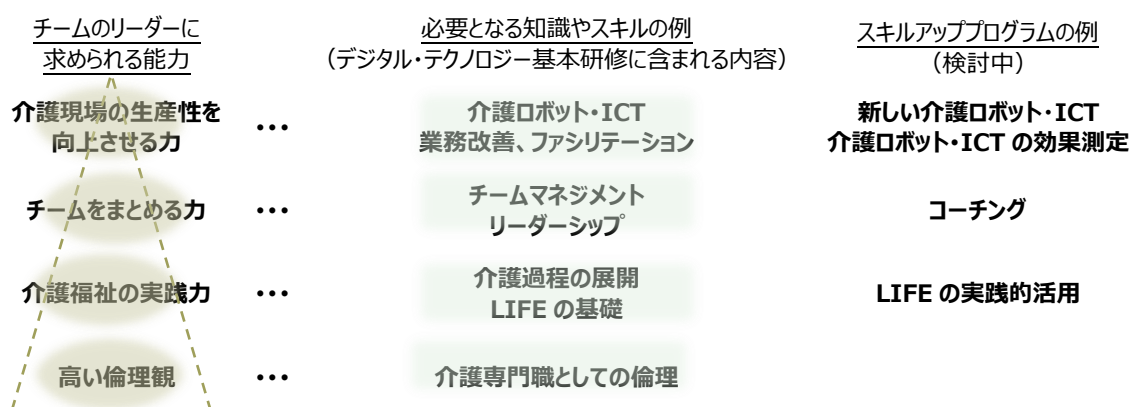
- 要介護者の増加やニーズが、より多様化していくなかで、業務を見直し、限られた資源を用いて一人でも多くの利用者に質の高いケアを届けること。
- 改善で生まれた時間を有効活用し、利用者に向き合う時間を増やしたり、自分たちで質をどう高めるか考えていくこと。
- 均質性のとれたケアを持続するために、職員が自ら考え提案することができる、専門職としての資質の向上と、ゆとりのある職場環境の維持に努めること。

- 介護サービスの質向上を達成するためには、これらの5つの項目の循環が必要です。これらの要素が相互に連携し、絶え間ない改善サイクルをつくり出すことで、介護サービスの質は向上すると考えます。



(2) 生産性向上中核人材育成プログラムの全体像

- 生産性向上中核人材育成プログラムでは、介護ロボット・ICTの導入自体が目的化しないように、業務改善と介護ロボット・ICT導入・活用を推進できる中核人材の育成をめざしています。
- 基本研修では、自職場での業務改善と介護ロボット・ICT導入の取り組みに着手できることを目標として設定し、より高度または特定業務において必要となるスキルは、スキルアッププログラムで段階的に習得していきます。



(3) デジタル・テクノロジー中核人材に期待すること

- 本研修やスキルアッププログラムの育成方針（介護現場の中で、どのような人材として活躍して欲しいか）は、次のとおりです。

育成方針	具体例
業務改善意識を醸成するための組織づくりを行い、生産性向上の方策として介護ロボット・ICTの活用を提案できる。	プロジェクトチーム立ち上げ 活用する機器の選定・提案
職場の業務分析から介護ロボット・ICT導入・運用までの過程において、チームが効率的に取り組めるよう、プロジェクトの目標設定や進捗管理を行うことができる。	実行計画の策定
介護ロボット・ICT導入・運用を効率的・効果的に行うために必要な情報を収集し、チームとの共有や職員に対する支援・指導を行うことができる。	機器導入講習会の開催 マニュアル作り
介護ロボット・ICT導入・運用による、利用者個別の支援の持続的な見直しを行うことができる。	個別介護計画への反映
客観的・定量的なデータにもとづき、支援の評価・分析を行うことができる。	LIFE フィードバックデータの活用

2. 本研修の枠組み

(1) 目的

- 介護現場における生産性向上の方策のひとつとして、テクノロジーを効果的に活用し、より質の高いケアを実践できる介護職員を育成します。
- 利用者の自立支援につながる個別性の高いケアを実現するために、介護現場や組織全体がチームとなって業務改善に取り組むためのリーダーシップと、介護ロボットや ICT を最大限に活用することができるアセスメント力をはじめとする、科学的介護の実践力の涵養をめざします。

(2) 対象

- 介護現場での実務経験が3年以上あり、かつ、次の①②いずれかに該当する方を対象とします。
- 本研修のカリキュラムは、研修の目的から介護福祉士を想定し構成していますが、当会の生産性向上のとらえ方をご理解いただける方であれば、他の資格・職種の方もご参加いただくことは可能です。ただし、定員を設けている集合研修では、介護職員を優先する場合があります。
 - ① 介護福祉士資格取得後、2年以上の実務経験がある方
 - ② 自職場で、業務改善や介護ロボット・ICT 導入について担当している方（取り組みたいと考えている方）
- タイプ A-2、B-2 は、「介護業務に携わる介護福祉士等の専門職と管理者等とのペアでの受講を推奨」しています（7 ページ参照）。管理者等とは、施設長や部課長など、施設・事業所等のなかで介護ロボット・ICT を推進する立場の方を指します。

(3) 費用

無料 ※2023 年度はモデル研修として無料で実施します。

(4) カリキュラムの構成と研修方法

- 本研修の学習内容は、介護福祉専門職としての倫理観を基盤に「介護福祉の実践力」、「チームをまとめる力」、「介護現場の生産性を向上させる力」の3領域で構成されています。
- 効率的に学習を進められるよう、各科目の内容は、介護現場における生産性向上の取り組みを持続するために必要となる知識や技術に焦点をあて、取り上げる項目を絞り込んでいます。

領域	科目	時間	方法	総時間
介護福祉の実践力	介護過程の応用的理解	70 分	オンデマンド動画	7 時間
	科学的介護の基礎的理解	90 分		
	介護職の倫理と利用者の全人性・尊厳の実践的理解	70 分		
チームをまとめる力	チームがまとまり成果を生み出す考え方と方法	80 分	集合研修	9 時間
介護現場の生産性を向上させる力	介護現場の問題発見と解決スキル	70 分		
	介護ロボット・ICT 活用の基礎的理解	40 分		
	介護現場の業務改善（演習）	180 分		
	介護ロボット・ICT の導入（演習）	180 分		
	利用者支援に向けた活用（演習）	180 分		

※ 本研修を効果的に受講いただくために、上記科目の他、介護ロボット・ICT に関する外部のプログラム（研修、資格、セミナー等）を受講することを強く推奨します（11 ページ参照）。

3. オンデマンド動画の概要

(1) 視聴方法と読替（受講免除）

- ・ オンデマンド動画は6科目です。科目の概要は、13～18ページのシラバスでご確認ください。ご自身で計画的に視聴し、学習してください。
- ・ 受講申込をした集合研修が開始するまで（初回面接授業の前日まで）に、必ず、受講を終えてください。
- ・ オンデマンド動画は、受講申込を行った日本介護福祉士会の研修管理システム『ケアウェル』をととして視聴します。



- ・ 日本介護福祉士会ファーストステップ研修を修了した方（今年度中に修了見込みの方も含む）は、一部、科目の受講免除（読替）ができます。

科目	修了した研修
介護職の倫理と利用者の全人性・尊厳の実践的理解 チームがまとまり成果を生み出す考え方と方法	介護福祉士ファーストステップ研修

(2) 導入動画と視聴前の自主学習

- ・ 研修の受講申込をする前に、必ず、導入動画「介護現場の生産性向上」（12ページ参照）を視聴してください。介護現場の生産性向上に関する国の取り組みや基本的な考え方を確認することで、本研修を効果的に受講することができます。受講する研修タイプ（7ページ参照）の選定にも役立ててください。
- ・ また、介護現場の生産性向上や介護ロボット・ICTに関する情報の多くは、Web上に公開されています。本研修で開講する科目も、厚生労働省等が公開しているガイドラインや動画、報告書等を教材として活用しています。
- ・ 授業で活用するこれらの情報は、シラバスに掲載しています（13～18ページ参照）。オンデマンド動画がアップされる前や集合研修を受講するまでに時間がある場合は、自主学習としてこれらの情報にアクセスし、目を通しておくことをおすすめします。

(3) 視聴後の課題（必須）

- ・ オンデマンド動画として開講される6科目を視聴した後に、事前課題（19ページ参照）を研修管理システム『ケアウェル』へ提出してください。
- ・ オンデマンド動画の視聴と事前課題の提出は、集合研修の受講要件です。受講の申し込みをした面接授業が始まるまでに完了できるよう、計画的に行ってください。

4. 集合研修の概要

(1) 集合研修のタイプー対象と方法ー

- 2023年度は、集合研修を4つのタイプで行います。集合研修は、受講者全員が集まる面接授業と、各受講者が自職場で取り組む課題で構成されています。
- 授業は主にオンライン（Zoom）で開催します。各自、自宅や自職場等からご参加ください。
- 受講者の自職場の状況（介護ロボット・ICT導入状況、業務改善取り組み等）によって、面接授業の日数が2日または3日に分かります。面接授業の時間数（540分：90分授業6コマ）や内容はすべて同じです。自職場の状況に応じて、取り組み課題が異なります。
- タイプA-1とA-2は、全国共通です（勤務地が所在する都道府県等の区別なく申込可能）。

【研修のタイプと概要】



お勤め先は、介護ロボットやICT導入の検討や活用を始めてる？



		【対象1】 ・ 介護ロボット・ICT導入は、模索中である。 ・ 生産性向上について気になっているが、どうしたらいいかわからない。	【対象2】 ・ 介護ロボット・ICT導入について、自職場で動きがある。 ・ 自職場で、業務改善に既に取り組んでいる。
【方法A】 すべて オンライン	タイプA-1	◆面接授業の日数 3日（修了まで約10週間） ◆自職場での取り組み課題 ・ 課題① 業務分析 ・ 課題② 介護ロボット・ICT導入計画の作成 ◆その他 ・ フォローアップ研修あり	タイプA-2 ◆面接授業の日数 2日（修了まで約5週間） ◆自職場での取り組み課題 ・ 課題② 介護ロボット・ICT導入計画の作成 ◆その他 ・ <u>介護業務に携わる介護福祉士等の専門職と管理者とのペアでの受講を推奨</u> ・ 課題①を研修前に提出した場合、「介護現場の業務改善（演習）」受講を免除
	タイプB-1	◆面接授業の日数 3日（修了まで約10週間、1日目対面） ◆自職場での取り組み課題 ・ 課題① 業務分析 ・ 課題② 介護ロボット・ICT導入計画の作成 ◆その他 ・ フォローアップ研修あり	タイプB-2 ◆面接授業の日数 2日（修了まで約5週間、2日目対面） ◆自職場での取り組み課題 ・ 課題② 介護ロボット・ICT導入計画の作成 ◆その他 ・ <u>介護業務に携わる介護福祉士等の専門職と管理者とのペアでの受講を推奨</u> ・ 課題①を研修前に提出した場合、「介護現場の業務改善（演習）」受講を免除

※ タイプA-2、B-2のペアでの受講を推奨している「管理者等」とは、施設長や部課長など、施設・事業所等のなかで介護ロボット・ICTを推進する立場の方を指します。ペアで受講する場合も、各自受講登録を行ってください。

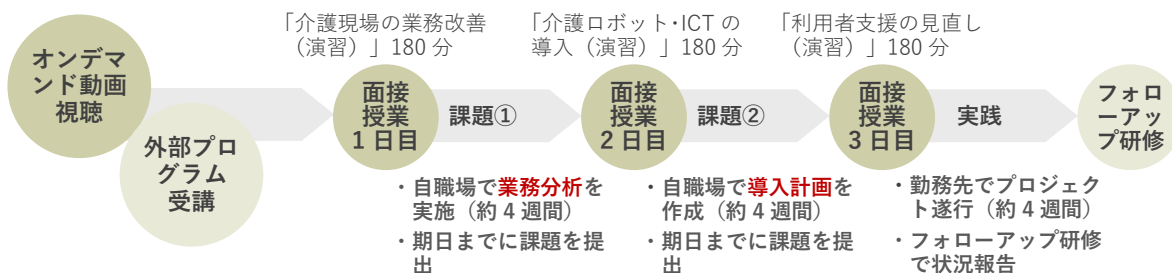
- タイプB-1とB-2は、次の県で開催します。開催県に所在する施設・事業所に勤務している方が対象です（会場は11月中旬に発表予定）。

タイプ	開催県	開催日程	定員
B-1	大阪府	23/12/7 木（対面） 24/1/25 木 2/29 木	100名
	北海道	23/12/13 水（対面） 24/1/31 水 3/6 水	100名
B-2	富山県	24/1/9 火 2/13 火（対面）	100名
	福岡県	24/1/29 月 3/4 月（対面）	100名

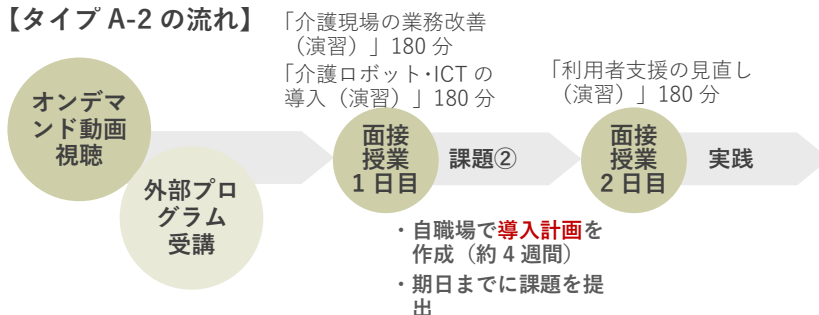
（2）科目の構成と研修の流れ

- ・ 面接授業は3科目（演習中心）です。科目の概要は、20～23 ページのシラバスでご確認ください。
- ・ タイプ A-2 及び B-2 の集合研修については、課題①を集合研修開始前に提出した場合、「介護現場の業務改善（演習）」受講が免除されます。

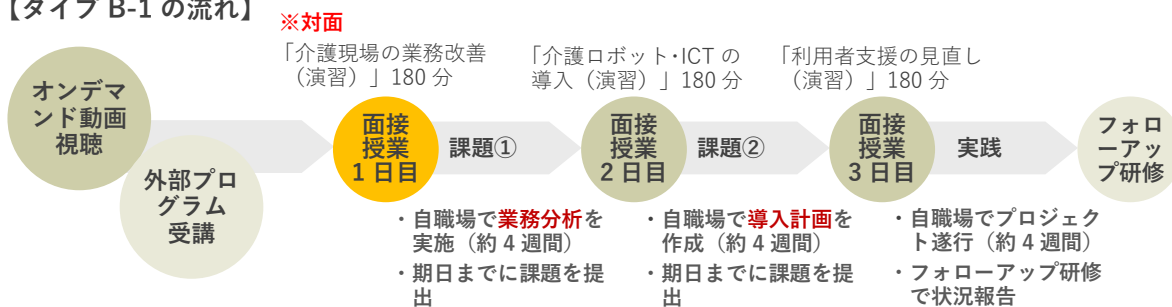
【タイプ A-1 の流れ】



【タイプ A-2 の流れ】

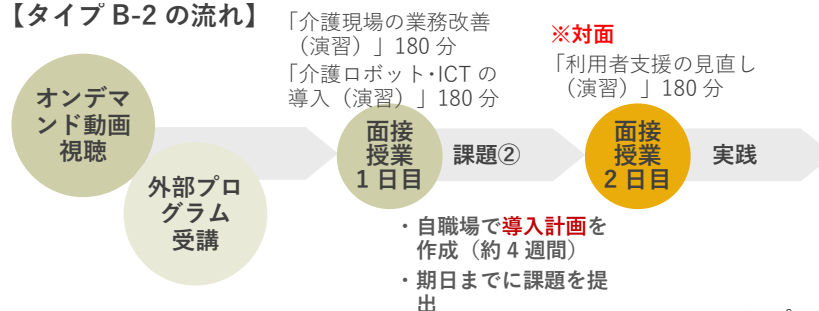


【タイプ B-1 の流れ】



※ タイプ B-1 開催県は、大阪府と北海道です。

【タイプ B-2 の流れ】



※ タイプ B-2 開催県は、富山県と福岡県です。

（３）研修日程

- ・ 研修タイプごとに、実施回数や方法が異なります。業務改善や介護ロボット・ICT 導入に関する自職場の状況も考慮しながら、研修タイプを選択してください。
- ・ いずれの研修タイプも、自職場で取り組む課題（要提出、23 ページ参照）があります。課題は受講者自身が中心となり自職場で生産性向上に関する取り組みを行うものです。
- ・ 受講申込は、コース単位で行ってください。原則として、複数のコースを受講することはできません。

【集合研修の日程】

タイプ	コース	日数	面接授業の実施日	時間	開催場所	申込〆切	定員
A-1	No.1	3 日	23/11/28 火	9:00～12:10	オンライン	11/24 金	350 名
			24/ 1/16 火	9:00～12:10			
			24/ 2/16 金	9:00～12:10			
	No.2	3 日	23/12/ 5 火	9:00～12:10	オンライン	12/ 1 金	350 名
			24/ 1/23 火	9:00～12:10			
			24/ 2/27 火	9:00～12:10			
	No.3	3 日	23/12/11 月	13:00～16:10	オンライン	12/ 7 木	350 名
			24/ 1/26 金	9:00～12:10			
			24/ 3/ 1 金	9:00～12:10			
A-2	No.4	2 日	23/11/30 木	9:00～16:10	オンライン	11/26 日	250 名
			24/ 1/18 木	9:00～12:10			
	No.5	2 日	23/12/16 土	9:00～16:10	オンライン	12/12 火	250 名
			24/ 2/ 2 金	9:00～12:10			
	No.6	2 日	23/12/18 月	9:00～16:10	オンライン	12/14 金	250 名
			24/ 2/ 5 月	9:00～12:10			
B-1	No.7	3 日	23/12/ 7 木	13:00～16:10	現地（大阪府）	12/ 1 金	100 名
			24/ 1/25 木	9:00～12:10	オンライン		
			24/ 2/29 木	9:00～12:10			
	No.8	3 日	23/12/13 水	13:00～16:10	現地（北海道）	12/ 7 木	100 名
			24/ 1/31 水	13:00～16:10	オンライン		
			24/ 3/ 6 水	9:00～12:10			
B-2	No.9	2 日	24/ 1/ 9 火	9:00～16:10	オンライン	12/28 木	100 名
			24/ 2/13 火	13:00～16:10	現地（富山県）		
	No.10	2 日	24/ 1/29 月	9:00～16:10	オンライン	1/19 金	100 名
			24/ 3/ 4 月	13:00～16:10	現地（福岡県）		

【現地開催の会場】 No.7 12/7 木 大阪マーチャндаイズ・マートビル（大阪 OMM ビル）
 No.8 12/13 水 TKP 札幌駅カンファレンスセンター
 No.9 2/16 火 富山県民会館
 No.10 3/4 月 TKP 博多駅前シティセンター

（4）受講方法と読替（受講免除）

- ・ オンラインで行う面接授業は、オンライン会議システム（Zoom）を使用します。Zoom の URL は、研修管理システム『ケアウェル』でお知らせします。
- ・ 対面で行う面接授業は、開催県（今年度は、大阪府、北海道、富山県、福岡県）の 1 会場で実施します。開催県に所在する介護サービス施設・事業所に勤務している方が対象です。
- ・ 面接授業は演習中心です。グループワークで課題に取り組む内容が多く含まれますので、原則として、欠席・遅刻・早退を認めません。一部の授業を他のコースへ振り替えることもできません。すべての実施日に出席できるよう、計画的に取り組んでください。
- ・ タイプ A-2、B-2 に限り、自施設での取り組み課題「課題① 業務分析」（23 ページ参照）を各期日までに提出した場合、「介護現場の業務改善（演習）」の受講が免除（読替）されます。
※ 提出された課題の内容によって、受講免除を取り消す場合があります。

タイプ	コース	日数	面接授業の実施日	受講免除後の授業時間	開催場所	課題①事前提出〆切
A-2	No.4	2 日	23/11/30 木	13:00～16:10	オンライン	11/26 日
			24/ 1/18 木	9:00～12:10		
	No.5	2 日	23/12/16 土	13:00～16:10	オンライン	12/11 月
			24/ 2/ 2 金	9:00～12:10		
	No.6	2 日	23/12/18 月	13:00～16:10	オンライン	12/13 水
			24/ 2/ 5 月	9:00～12:10		
B-2	No.9	2 日	24/ 1/ 9 火	13:00～16:10	オンライン	12/14 木
			24/ 2/13 火	13:00～16:10	現地（富山県）	
	No.10	2 日	24/ 1/29 月	13:00～16:10	オンライン	12/25 月
			24/ 3/ 4 月	13:00～16:10	現地（福岡県）	

※「課題① 業務分析」提出で、9:00～10:30、10:40～12:10 に開催予定の「介護現場の業務改善（演習）」が免除されます。

（5）自職場での取り組み課題（必須）

- ・ 面接授業のなかで行う演習は、次の面接授業までの期間に、受講者自身がご自身の勤務先でリーダーとなって実施していただく内容です。
- ・ 授業の中で他の受講者とグループワークをととして学んだプロセスや方法にもとづき、指定された課題（23 ページ参照）に取り組んでいただきます。その結果を、研修管理システム『ケアウェル』へ提出してください。
- ・ 課題の内容は、課題①、②ともに、受講者が勤務している介護サービス施設や事業所において、実際に業務改善や介護ロボット・ICT の導入に取り組んでいただくものです。

5. 外部プログラムの活用

- ・ 本研修を効果的に受講いただくために、介護ロボット・ICTに関する外部のプログラム（研修、セミナー、資格等）を受講することを強く推奨します。
- ・ 厚生労働省「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業」の一環で行われているプログラムや、自治体が行っている介護ロボット・ICTの導入支援事業など、介護ロボット・ICTの基本的な知識や介護現場での導入・活用方法について学ぶ様々な機会があります。ご自身が参加できるプログラムについて、積極的に情報収集してください。

【研修・セミナーの例】

The collage features several promotional materials for caregiver robot training and events. At the top left is a screenshot of the '介護ロボットプラットフォーム' (Care Robot Platform) website, which provides information on the development, implementation, and dissemination of caregiver robots. To the right is a flyer for the '介護ロボット地域フォーラム 静岡会場 出展企業募集' (Care Robot Regional Forum Shizuoka Venue Exhibition Company Recruitment), scheduled for December 12, 2023. Below these is a flyer for the '千葉市介護ロボットフェア' (Chiba City Care Robot Fair), a free event on November 15, 2023, aimed at recruiting exhibitors. At the bottom is a flyer for a seminar on November 15, 2023, at the Okura Chiba Hotel, featuring a presentation and a seminar from 10:00 to 11:50.

【資格の例】

主催	資格	問合せ先等
株式会社善光総合研究所	「スマート介護士資格試験」(Basic/E xpert) https://smartcaregiver-online.studio.site/	スマート介護士資格運営事務局 E-mail : exam1@test-event.co.jp Tel : 050-8882-8677
福岡県北九州市保健福祉局先進的介護システム推進室	「介護ロボットマスター育成講習」(入門編/実践編/管理編) https://www.city.kitakyushu.lg.jp/ho-huku/31600087.html	北九州市介護ロボット等導入支援・普及促進センター(事務局:麻生教育サービス株式会社) Tel : 093-522-5811

5. 研修シラバス

(1) 受講の準備

導入動画

課題名	介護現場の生産性向上		総時間	60 分
目 標	介護現場の生産性向上に関する国の取り組みと、基本的な考え方を確認する。			
	厚生労働省の生産性向上に関する次の2つの動画を視聴すること。 ①「介護現場の生産性向上における厚生労働省の取組等について」（厚生労働省老健局高齢者支援課介護業務効率化・生産性向上推進室） ②「介護サービスの生産性向上の基本と取組のポイント～介護経営としての業務改善の考え方と今日からできること～」（株式会社 TRAPE） 参考： 「2023 介護事業所向け生産性向上ビギナーセミナー」(厚生労働省サイト)https://www.mhlw.go.jp/stf/kaigo-seisansei_seminar2023.html ※動画で使用しているスライド資料をダウンロードできます。	動画 視聴	YouTube： 「生産性向上の取組に関する介護事業所向けビギナーセミナー（関東）」 「介護現場の生産性向上における厚生労働省の取組等について」（22 分）https://youtu.be/DSmZFALVp_g?list=PLMG33RKISnWjZ_6jvnqvBsThb8WmuFQb0 「介護サービスの生産性向上の基本と取組のポイント」～介護経営としての業務改善の考え方と今日からできること～（36 分）https://youtu.be/FRW5ujjTrr4?list=PLMG33RKISnWjZ_6jvnqvBsThb8WmuFQb0	

(2) オンデマンド動画（必須）

介護過程の実践力

科目名	介護過程の応用的理解	総時間	70 分
目 標	介護福祉士の実践の基盤である介護過程に関する知識を確認し、介護ロボット・ICT 活用を利用者の支援につなげる視点と、PDCA の考え方を理解する。		

動画	含まれる内容	時間	教材等
動画①	1. 介護過程の概要 (1) 介護過程とは (2) 介護過程の意義と目的 (3) 介護過程の展開	40 分	「令和 3 年度「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づく対応状況等に関する調査結果」 （厚生労働省サイト） https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000196989_00024.html 『【施設・事業所向け手引き】より良い職場・サービスのために今日からできること（業務改善の手引き）パイロット事業令和 2 年度版』（令和 3 年 3 月，厚生労働省老健局高齢者支援課） https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/Seisansei_shiset-su_Guide.pdf
	2. 生活支援の考え方と介護過程 (1) アセスメントの視点・方法 (2) アセスメントと ICF		
	3. 介護計画 (1) 介護計画とは (2) 個別介護計画の立案		
動画②	4. 介護ロボット・ICT 活用と介護過程 ・自立支援を目的とした活用に関する事例 ・介護ロボット・ICT 活用によるアセスメントに関する事例 ・介護ロボット・ICT 活用による利用者のモニタリングに関する事例	25 分	※参考資料 令和 2 年度社会福祉推進事業『介護現場における介護過程実践の実態調査及び効果検証に関する調査研究事業根拠に基づく介護実践のヒント介護過程 実践事例集』 https://www.comon.jp/dl/2105_all.pdf
	5. まとめ ・介護過程とは ・アセスメントの視点 ・介護ロボット導入の目的	5 分	

科目名	科学的介護の基礎的理解	総時間	90 分
目 標	ケアの質向上に向けて科学的介護を実践する意義と、基礎的な知識を習得する。		

動画	含まれる内容	時間	教材等
動画①	1. 科学的介護の理解 (1) 科学的介護とは (2) エビデンスにもとづいた介護の実践 (3) 科学的介護のめざす姿	45 分	「科学的介護情報システム（LIFE）による科学的介護の推進について」（厚生労働省 老健局老人保健課）https://www.mhlw.go.jp/content/12301000/000949376.pdf ※参考資料【動画】 「バーセルインデックス（BI）の評価方法について」（厚生労働省）https://youtu.be/d4Sb83VgxPA ※参考資料【動画】 「令和4年度科学的介護に向けた質の向上支援等事業研修会」（厚生労働省）https://youtu.be/M8y67itHiis 『ケアの質の向上に向けた科学的介護情報システム（LIFE）の利活用に関する事例集』p15～18（厚生労働省）https://www.mhlw.go.jp/content/12301000/000964348.pdf
	2. 科学的介護情報システム（LIFE）の理解 (1) LIFE の役割 (2) フィードバック情報としての活用		
	3. 利用者の状態と介護のとりえ方 (1) 介護分野におけるデータの基礎的理解 (2) 測定する対象のとりえ方 ・単純集計 ・クロス集計		
	4. LIFE で用いられる評価指標 ・ Barthel Index ・ 障害高齢者の日常生活自立度 ・ 認知症高齢者の日常生活自立度 ・ Vitality Index		
動画②	5. フィードバックデータを活用したケア改善のための事例① LIFE の利活用に向けた体制等の準備（多職種協働での視点と情報共有）	40 分	
	6. フィードバックデータを活用したケア改善のための事例② 自施設・事業所の特徴を把握する（着眼点の決定、全国平均との比較、大きな差異の探索、要因の検討）		
	7. まとめ ・ 科学的介護とは ・ LIFE の役割 ・ 評価指標の使い方 ・ データの活用方法	5 分	

科目名	介護職の倫理と利用者の全人性・尊厳の実践的理解		総時間	70 分
目 標	尊厳の保持と自立支援の考え方を基に、利用者の生活全体をとらえる視点と、その尊厳が損なわれている状況に気づき実践を改善するための知識を習得する。			
動画	含まれる内容	時間	教材等	
動画①	1. 尊厳の保持と自立支援の意味 ※日本国憲法、社会福祉法、介護保険法、障害者総合支援法、社会福祉士及び介護福祉士法をもとに理解する。	45 分		
	2. 介護職の倫理の意味の理解 (1) 日本介護福祉士会倫理綱領の意味 (2) 生命倫理の 4 原則の意義			
	3. 虐待防止と身体拘束廃止の意味と実践 (1) 高齢者等の虐待の定義と実態 (2) 高齢者等の身体拘束の定義実態			
動画②	4. 介護ロボット・ICT の利活用と介護の倫理 ・利用者のプライバシーと尊厳に関する事例 ・利用者の自立支援と尊厳に関する事例	20 分		
	6. まとめ ・尊厳の保持と自立支援 ・介護の倫理と法的規定 ・高齢者虐待と身体拘束 ・介護ロボット・ICT の利活用と倫理	5 分		

チームをまとめる力

科目名	チームがまとまり成果を生み出す考え方と方法	総時間	80 分
目 標	介護の質向上に結びつく業務の効率化をチームで生み出すための、リーダーシップ、フォロアーシップ、マネジメントのあり方と方法を習得する。		

動画	含まれる内容	時間	教材等
動画①	1. チームがまとまり成果を生み出すリーダーの役割 (1) リーダーシップとは（チームが構築され機能するための理論と方法） (2) チームで活きる、リーダーシップ、フォロワーシップ、マネジメント (3) スタッフの教育と指導	40 分	『【施設・事業所向け手引き】より良い職場・サービスのために今日からできること（業務改善の手引き）パイロット事業令和2年度版』（令和3年3月，厚生労働省老健局高齢者支援課） https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/Seisansei_shisetu_Guide.pdf 『介護現場における生産性向上の取組を支援・促進する手引き』（厚生労働省老健局） https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/Seisansei_shien_Guide.pdf
	2. メンバーのやる気と成長を支援する (1) 阻害要因の除去 (2) やる気と成長の促進 (3) フィードバックとアドバイス (4) メンバーの能力醸成		
	3. チームが機能する心理的安全性づくり (1) 心理的安全とは (2) 信頼との違い (3) 介護現場における心理的安全性 (4) チームが機能する心理的安全性づくりの方法		
動画②	4. 有効な業務改善を進める方法 (1) 業務改善の目的の明確化 (2) 介護現場の問題の発見と課題の見える可 (3) PDCA サイクルを活かす	35 分	
	5. PDCA サイクルを循環してチームマネジメントする（PDCA サイクルのポイント） (1) 具体的な計画を立てる (2) 計画に沿って実行する (3) 実行した内容の測定や評価をする (4) 評価を基に対策や改善を行う		
	6. まとめ ・チーム構築とメンバー支援 ・チームの心理的安全性とは ・PDCA サイクルの理解	5 分	

生産性を向上させる力

科目名	介護現場の問題発見と解決スキル		総時間	70 分
目 標	問題の本質を理解し、その発見から解決までのプロセスに活かせる、着眼点・発想の技法・業務改善手法の知識と技法を習得する。			
動画	含まれる内容	時間	教材等	
動画①	1. 問題発見と論理的思考 ・問題とはそもそも何か ・問題の種類と、課題との相違点は何か	20 分	『【施設・事業所向け手引き】より良い職場・サービスのために今日からできること（業務改善の手引き）パイロット事業令和2年度版』（令和3年3月、厚生労働省老健局高齢者支援課） https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/Seisansei_shisetu_Guide.pdf 『介護現場における生産性向上の取組を支援・促進する手引き』（厚生労働省老健局） https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/Seisansei_shien_Guide.pdf	
	2. 論理的思考が見える化する ・論理的思考とは何か ・思考の発散と収束する意味 ・フレームワークの種類と効果			
動画②	3. 論理的思考が見える化する例① ・ロジック・ツリーの使い方	20 分		
	4. 論理的思考が見える化する例② ・マンダラートの使い方			
動画③	5. チーム力を生み出す会議と対話 (1) 会議の意味と目的 (2) 会議をマネジメントするファシリテーション	25 分		
	6. ファシリテーション技法 (1) 会議の目的を共有する (2) グラウンドルールの意義と効果 (3) 会議の進行方法 (4) 対話の見える化（板書の方法）			
	7. まとめ ・問題と課題の相違 ・論理的思考とフレームワーク ・ファシリテーションの意義とスキル	5 分		
資料	8. 付録 ・問題発見のための思考の発散と収束技法 ・BS 法、BR 法、チェックリスト ・親和図法、セブncクロス法、マトリックス法	-		

科目名	介護ロボット・ICT の基礎的理解	総時間	40 分
目 標	利用者の自立支援や介護業務の負担軽減を実現するために必要となる、介護ロボット・ICT に関する基本的な知識を習得する。		

動画	含まれる内容	時間	教材等
動画	1. 介護ロボットとは (1) 介護ロボットの定義 ・重点分野 (2) 介護ロボットの例 ・移乗支援、移動支援、排泄支援、見守り・コミュニケーション、入浴支援、介護業務支援	35 分	『【施設・事業所向け手引き】より良い職場・サービスのために今日からできること（業務改善の手引き）パイロット事業令和2年度版』（令和3年3月，厚生労働省老健局高齢者支援課） https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/Seisansei_shiset-su_Guide.pdf 『介護サービス事業（居宅サービス分）における生産性向上に資するガイドライン改定案～介護の価値向上につながる職場の作り方～』（令和4年3月，厚生労働省老健局振興課） https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/Seisansei_kyotaku_Guide.pdf 「介護ロボットの開発・普及の促進」（厚生労働省） https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000209634.html ・介護ロボットとは ・介護ロボットの開発支援について ・介護ロボットの導入・活用支援
	2. 介護ロボット・ICT に関する国や自治体の支援 ・生産性向上に資するガイドライン ・地域医療介護総合確保基金 ・介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（相談窓口、リビングラボ）		
	3. 介護 ICT とは (1) ICT とは (2) 介護 ICT の例 ・介護ソフト、オンラインツール、インカム、デバイス		
	4. セキュリティ ・セキュリティ対策 ・個人情報保護		
	5. まとめ ・重点分野 ・介護ロボット・ICT の最適な使い方	5 分	

事前課題（集合研修開始までに取り組む課題）

課題名	介護現場の生産性向上についての基本的な理解		総時間	－
目 標	介護現場の生産性向上についての考え方と、具体的な取り組み方法や流れを理解する。			
	1) 厚生労働省の生産性向上に関する動画「介護分野における生産性向上の取組の進め方」から、次の2つの動画を視聴すること。 ①「手順1 改善活動の準備をしよう」 ②「手順2 現場の課題を見える化しよう」 2) 2つの動画を視聴したうえで、あなたが自職場で生産性向上に向けた改善活動や介護ロボット・ICT導入のプロジェクトチームのリーダーを上手く務めるためには、どのような知識・技術、職場環境が必要になるか、200～400字以内で記述してください。 提出方法：研修管理システム『ケアウェル』 提出期限：受講申込をした集合研修の初回面接授業前日まで	動画 視聴	「介護分野における生産性向上の取組の進め方」(厚生労働省サイト)：https://www.mhlw.go.jp/stf/kaigo-seisansei-elearning.html 「手順1 改善活動の準備をしよう；背景理解～生産性向上とはなにか～」(8分) https://youtu.be/MOq3m2jpLHU 「手順2 現場の課題を見える化しよう；課題把握～生産性向上の一連のプロセス～」(8分) https://youtu.be/i1xtNHgpzSA	

(3) 集合研修（必須）

生産性を向上させる力

科目名	介護現場の業務改善（演習）	総時間	180 分
目 標	介護現場の業務改善を行うために必要となる、基本的な知識を習得する。業務改善の手順とツールの使い方を体験的に理解し、自職場での効果的な実践をめざす。		

授業	含まれる内容	時間	教材等
1・2 限目	1. 業務改善意識の醸成 ・プロジェクトチームの立ち上げ ・メンバーの選定	180 分	『【施設・事業所向け手引き】より良い職場・サービスのために今日からできること（業務改善の手引き）パイロット事業令和2年度版』（令和3年3月，厚生労働省老健局高齢者支援課） https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/Seisansei_shiset_su_Guide.pdf 『介護サービス事業（居宅サービス分）における生産性向上に資するガイドライン改定案～介護の価値向上につながる職場の作り方～』（令和4年3月，厚生労働省老健局振興課） https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/Seisansei_kyotaku_Guide.pdf 『介護現場における生産性向上の取組を支援・促進する手引き』（厚生労働省老健局） https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/Seisansei_shien_Guide.pdf
	2. 業務改善プロジェクトの進め方 ・全体の流れ ・改善活動を実践する意義の伝達		
	3. 介護現場の課題の可視化 (1) 課題把握 (2) 業務時間調査 ・業務時間見える化ツール ・24 時間シート		
	4. 人員配置の適正化		
	5. 課題解決の方針の決定 ・改善方針シートの作成 ・進捗管理シートの作成		
	6. 業務時間調査の演習 ・業務時間見える化ツールを使い業務時間調査 ・グループワーク		

科目名	介護ロボット・ICT の導入（演習）		総時間	180 分
目 標	介護ロボット・ICT の導入と適切な利活用を実現するために必要となる、基本的な知識を習得する。導入手順を体験的に理解し、自職場でのプロジェクトに活かす。			
授業	含まれる内容	時間	教材等	
1・2 限目	1. 導入プロジェクトチームの立ち上げ	180 分	『【施設・事業所向け手引き】より良い職場・サービスのために今日からできること（業務改善の手引き）パイロット事業令和2年度版』（令和3年3月，厚生労働省老健局高齢者支援課） https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/Seisansei_shiset-su_Guide.pdf 『介護サービス事業（居宅サービス分）における生産性向上に資するガイドライン改定案～介護の価値向上につながる職場の作り方～』（令和4年3月，厚生労働省老健局振興課） https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/Seisansei_kyotaku_Guide.pdf 『介護現場における生産性向上の取組を支援・促進する手引き』（厚生労働省老健局） https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/Seisansei_shien_Guide.pdf	
	2. 導入する介護ロボット・ICT の調査 ・メーカーサイト ・展示会 ・相談窓口（介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム）			
	3. 国や自治体が行っている導入支援			
	4. 介護ロボット・ICT 選定の基準			
	5. 導入計画の作成 ・導入講習会 ・マニュアル作成			
	6. 導入する介護ロボット・ICT の調査			
	7. 導入計画の作成 ・介護ロボット・ICT を導入するための具体的な計画を考えてみる			

科目名	利用者支援に向けた活用（演習）	総時間	180 分
目 標	介護ロボット・ICT 導入による個別介護計画の見直しや、介護の質向上に向けた対応など、自職場での取り組みの報告をおし学習する。		

授業	含まれる内容	時間	教材等
1・2 限目	1. 導入計画の共有 ・自職場で取り組んだ導入計画を作成する課題についてグループ内で発表（導入計画の概要と進捗状況） 2. 利用者支援への活用についての事例検討（例） ・自立支援を目的とした活用に関する事例 ・介護ロボット・ICT 活用によるアセスメントに関する事例 ・介護ロボット・ICT 活用による利用者のモニタリングに関する事例 ・介護オペレーションの改善によって生まれた時間の活用に関する事例	180 分	『【施設・事業所向け手引き】より良い職場・サービスのために今日からできること（業務改善の手引き）パイロット事業令和2年度版』（令和3年3月，厚生労働省老健局高齢者支援課） https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/Seisansei_shisetu_Guide.pdf 『介護サービス事業（居宅サービス分）における生産性向上に資するガイドライン改定案～介護の価値向上につながる職場の作り方～』（令和4年3月，厚生労働省老健局振興課） https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/Seisansei_kyotaku_Guide.pdf 『介護現場における生産性向上の取組を支援・促進する手引き』（厚生労働省老健局） https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/Seisansei_shien_Guide.pdf

自職場での取り組み課題（集合研修のなかで取り組む課題）

課題名	課題① 業務分析	総時間	約 4 週間
目 標	受講者が中心となってプロジェクトチームを立ち上げ、自職場の課題を可視化する。		
	1) 自職場で、受講者自身が中心となり業務改善のためのプロジェクトチームを立ち上げたり、委員会で取り上げる。 2) 面接授業のなかで用いた業務改善ツールを使用し、チームで業務分析（課題の可視化）を行う。 3) 研修のグループ内で、自職場の業務分析の結果について共有する。【次回面接授業】 提出方法：研修管理システム『ケアウェル』 提出期限：指定された期日（目安：次回面接授業日の 3 日前）まで		

課題名	課題② 介護ロボット・ICT 導入計画の作成	総時間	約 4 週間
目 標	業務分析によって可視化された課題を解決するために適切な介護ロボット・ICT を選定し、その導入のための計画を作成する。		
	1) 面接授業のなかで用いた書式を活用し、自職場で介護ロボット・ICT を導入するための導入計画をチームで作成する。 2) 研修のグループ内で、自職場の導入計画の概要と進捗状況について共有する。【次回面接授業】 提出方法：研修管理システム『ケアウェル』 提出期限：指定された期日（目安：次回面接授業開催の 3 日前）まで		

**日本介護福祉士会生産性向上中核人材育成プログラム
デジタル・テクノロジー基本研修 プログラム概要・募集要項
2023(令和 5)年度モデル研修版**

2023(令和 5)年 10 月発行
公益社団法人日本介護福祉士会 生産性向上中核人材育成プログラム検討部会
